コミュニティを地域ぐるみで支えていく

石川県白山市　美川生活学校

室町時代末に成立したという日本最古の海の法律『廻船式目』。この法律に、日本の十大港湾（三津・七湊）の港湾都市として、本吉湊（現在の美川漁港）が記されている。数多くの北前船がここに停泊し、加賀国随一の要港として大いに栄えた。

そんな美川町には、明治5年（1872）、県の中央ということで一年弱という短い期間だが、県庁が置かれた。そして、この地が石川郡美川町であったことから、県の名前を「金沢県」から「石川県」に変更し、今もその名が続いている。

今回、そんな由緒ある美川町で、半世紀以上に渡って地域活動を続けている美川生活学校と令和2年からはじめた子ども宅食を取材した。

昭和43年に美川生活学校は、「かしこい消費者となるために」を目標に活動が始まった。その当時から食品添加物の問題や高齢化社会への取り組みなど、地域で暮らしていく中で直面する問題に対して積極的に取り組んでいる。

現在では、平成15年から始まった高齢者サロン「おしゃれ茶会」をはじめ、エコキャップ回収活動、子ども宅食、海洋汚染問題への取り組みなど、幅広い。石川県生活学校連絡会会長で美川生活学校のメンバーでもある長田千代子さんは、美川生活学校について「地域に根ざした、地域にあった、地域の活動を意識しながら日々活動に取り組んでいる」と力強く話してくれた。

子ども宅食について長田さんに話を伺うと、実は最初は子どもと高齢者の世代間交流の活動を考えていたという。石川県輪島市にある地域活動団体「小梅の会」が世代間交流をしていたのを見学し、活動を模索していた。

だが、日本にコロナ禍が押し寄せる。人間同士の交流が日本中で妨げられる事態に、長田さんもどのような取り組みを

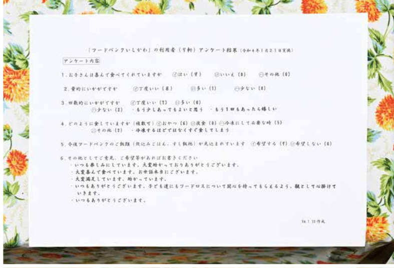
するか悩んでいた。

そんな時、以前から交流があり、「もったいない」を「ありがとう」に変える取り組みをしている「フードバンクいしかわ」の活動を思い出し、子ども宅食の活動を企画。「フードバンクいしかわ」から協力を得ることが出来、子育て家庭に食料品などを届けながら親子を見守る活動である、子ども宅食をはじめることとなった。

子ども宅食は、「フードバンクいしかわ」の協力を得て、毎月2回、16世帯に食料品を届けている。第2木曜日(夏場の7・8月以外)は地元でも有名な寿司の企業から寄付があり、第4月曜日は大型スーパーのコストコにある賞味期限が近いパンが寄付されている。

活動日当日の11時。長田さんが車でコストコに向かうと、たくさんのパンが運ばれてきた。車に入るか心配になったが、これでも少ない方で、多い時は車いっぱいになることもあるという。その間に、担当メンバー6名は作業をする場所に集合。車が到着するやいなや、一斉にパンを搬入し、仕分け作業に取り掛かる。美川生活学校の代表である油野妙子さんは、この取り組みをするにあたって、メンバーが無理なく参加できるよう、メンバーの中で活動委員を作り、ローテーションで作業をすることにした。その成果もあってか、全員が無駄なく作業をこなしていた。「今日は子どもの喜ぶパンがあるね」と、子どもの顔を思いながら手を動かす。そして宅配作業へ。「届ける時は、安否確認をしながら、ありがとうの言葉に笑顔と元気をもらっています」とメンバーの方が話してくれた。今回は、長田さんの車に同乗させてもらい、2世帯から話を聞くことができた。

ベトナムから仕事のために日本に来たという夫婦は、子ど



もを保育園に入園させるため、２０２３年に美川町に引っ越してきた。その時に保育園の入園などについてサポートしたのが、長田さんだった。長田さんは、夫の仕事の関係でアメリカにいた時があり、そこでの子育てがとても大変だったとのこと。異国の地で、子育てをすることの大変さを知っていた長田さんだからこそ、ベトナムの夫婦のサポートがすんなり上手くいったのだろう。家族３人で「いつもありがとう」と、長田さんに笑顔で話していた。

　長田さんの近所に住んでいる方は、５人の子どもを働きながら育てている。子ども宅食について伺うと、次のように話してくれた。「子どもが5人いるので、とても助かっています。また、仕事をしながらなので、届けてくれるのがありがたいです。食料品だけでなく、子どもたちの様子を見てくれるので、安心して仕事ができます。身近に見守ってくれる人がいるのは、とてもありがたいですね」

　50年以上も美川町で活動し、高齢者・子ども支援や環境問題への取り組みなど、幅広く地域の課題に向き合ってきた美川生活学校。これからの取り組みについて長田さんに伺った。「美川生活学校のメンバーは、それぞれ能力があって知恵がある。そんなみんなの得意分野を活かして、これからもみんなで活動したい。そして、自分たちの生活学校だけじゃなく、他団体とも協力して、地域ぐるみで地域の課題に取り組んでいきたい」

　地域のことを考え、地域ぐるみで活動してきた半世紀以上の歴史がそこにはあった。いまだに能登半島地震からの復興が見えない石川県。豊かな歴史と豊かなコミュニティを失う訳にはいかない。

【連絡先】美川生活学校（石川県新生活運動協議会）
TEL・FAX：076-245-6581